

# 女城主 井伊直虎

## 戦乱の世に生きた軌跡

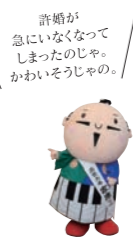
お家断絶の危機に立ち上がった、  
希代の「女城主」。  
井伊家歴代当主の中にこの名はないが、  
戦国時代を語る上で  
欠かすことのできない注目的人物だ。

## EPISODE I 許婚との 別れと出家

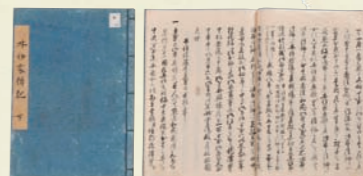
直虎(幼名生年月日不明)は、井伊家当主 井伊直盛と新野左馬助親矩の妹との間に誕生した一人娘とされている。直盛には嫡男がなく、従弟の亀之丞(後の井伊直親)を一人娘の許婚とし、井伊家の跡継ぎにする予定だった。ところが、天文13年(1544)、亀之丞の父・直満が今川義元に謀反の嫌疑をかけられ殺害された上に、当時9歳だった亀之丞

丞までも命を狙われ、信濃(長野県)の松源寺に身を隠すことになる。

許婚から引き離され悲しみにくれる直虎は、菩提寺である龍潭寺で出家を決意。第二世住職 南溪和尚は井伊家跡継ぎの証である「次郎」を冠した「次郎法師」の名を与えた。



### Check 井伊家伝記



享保15年(1730)、龍潭寺9代目の住職である相山(そざん)和尚が記した井伊家の歴史書。「次郎法師は女ではあるが、井伊家を継ぐ家に生まれたので、跡継ぎの名と僧侶の名をかねて、次郎法師という」といった意味の記述がある。〈龍潭寺所蔵〉



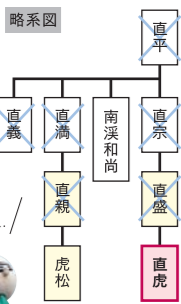
## EPISODE II 逆らえぬ運命と 虎松の誕生

11年後の弘治元年(1555)、無事井伊谷に戻った亀之丞は、直盛の養子となり「直親」と名を改めた。許婚の帰還を喜ぶも、すでに出家していた次郎法師は直親と結ばれることはなく、直親は古くから井伊氏の家臣であった奥山氏の娘と結婚することになる。

直親の帰還から5年後、井伊家にとって受難の時代が始まる。永禄3年(1560)、桶狭間の戦いで直盛が戦死。翌年、待望の男子 虎松(後の井伊直政)が誕生し、喜びに沸いた井伊家だったが、安泰は長く続

かなかった。

永禄5年(1562)には、今川氏真から徳川方へ寝返ったと嫌疑をかけられ直親が誅殺され、さらに次郎法師の曾祖父にあたる井伊直平も戦中に死去。井伊谷城代を務めた中野氏と新野氏まで戦死してしまい、井伊家は一族の主立った男性をすべて失い、男子はわずか2才の虎松のみとなった。



### C いいおちかのはか 井伊直親の墓

永禄5年(1562)、家老の小野但馬守が今川氏真にさん言をしたため、直政の父直親は弁明に駿河へ向かう。その道中、掛川城主朝比奈備中守によって謀殺された。石碑の前の灯籠は、嘉永4年(1851)、井伊直弼(なおすけ)により寄進されたもの。

浜松市北区細江町中川 交/天竜浜名湖鉄道「金指駅」より徒歩約15分

### 井伊氏 大打撃! 「桶狭間の戦い」は、 井伊氏にとっての分岐点



出展:パブリックドメイン美術館

永禄3年(1560)、尾張の領主 織田信長が、駿河・遠江・三河の領主 今川義元の2万5千といわれる大軍を打ち破った合戦。今川軍が桶狭間で小休止をとっているところを織田軍が奇襲し、今川家はまさかの敗北。今川方の武将として出陣していた井伊直盛も、義元とともに戦死した。多くの家臣も戦死した井伊氏は大打撃を受けたのである。当主である直盛を失った後、当時25歳の直親が当主を継いだ。さらなる不幸が井伊氏を襲い、後を継ぐ男性は幼い虎松ただ一人となった。直盛が討死した桶狭間の戦いは、井伊氏のその後大きな影響を与える分岐点となり、女城主・直虎誕生へと繋がっていくのである。



### D てらのほうぞうじかんのどう 寺野宝蔵寺観音堂

弘治元年(1555)、亀之丞(井伊直親)が信州の松源寺から井伊谷へ帰国の際、「青葉の笛」を寄進したと伝えられる。正式には直笛山(ちよくてぎざん)宝蔵寺といい、山号に直親の直と笛の字が用いられている。400年以上の歴史があり、五穀豊穡などを祈る「火踊り」、寺野ひよんどりは毎年1月3日の開催。



浜松市北区引佐町渡川877 交/天竜浜名湖鉄道「金指駅」より車で約35分

### 直政の命の恩人 井伊氏最大のピンチを救った武将 「新野左馬助親矩」にいのさまのすけちか(のり)

今川氏の家臣であった新野左馬助親矩は、遠江国新野(現御前崎市)の領主。妹は井伊直盛の妻であり、直虎の母である。左馬助は井伊氏の目付役家老として井伊谷に居住し、今川氏との間をとりまとめ井伊氏を支えた。永禄7年(1564)、今川氏真により直親が誅殺され、子の虎松も殺せとの命令が下された際には、左馬助が助命を嘆願。命をかけて虎松を守り、井伊氏の危機を救ったといわれる。左馬助は永禄7年(1564)、引間城攻めで無念の死を遂げた。



©光山房